



「紅組がんばれ!白組がんばれ!」

9/23 西本梅小学校運動会

広報
なんたん

もくじ

- 2 南丹市総合振興計画「基本計画」を策定
- 6 南丹市立殿田小学校 新校舎が完成しました
- 8 新バス路線園部八木線運行スタート
- 10 南丹市美山山村留学の歴史を振り返る
- 14 いきいき南丹／ぶらりなんたん ～玉岩地藏堂～

10月号

2007年 Vol.22

南丹市総合振興計画「基本計画」を策定

森・里・街がきらめくふるさと南丹市



▲のどかな里の風景（美山町原）

南丹市の将来像を掲げる南丹市総合振興計画。総合振興計画審議会による答申を受け、このほど「基本計画」を策定しました。地域の現状や課題から、今後どのような取り組みを行っていくのか、基本計画で具体的に示した施策の方針について、概要をお伝えします。

「基本計画」とは

南丹市総合振興計画は、今後の南丹市の方向性を示し「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」で構成する南丹市の大切なまちづくり計画です。

このうち、十年後の南丹市を展望してまちの将来像を示した「基本構想」は、南丹市議会六月定例会での議決を経てすでに策定しており、市民の皆さんにも本誌七月号でその内容をお知らせしました。

そして、このたび策定した「基本計画」は、「基本構想」に基づいてその目標を達成するため施策の方針をまとめたものです。

基本計画の計画期間は、総合

振興計画全体構想の十年間の

うち、前期に相当する平成二十

年度から二十四年度までの五年

間と位置づけています。施策の

方針や関連した事業の推進に関

する数値の目標を示しており、

五年後にはその評価や社会情勢

の変化を踏まえて中間見直し

を行い、改めて後期基本計画の

策定を行います。

基本計画の構成

基本計画では、基本構想に掲げたまちづくりの基本目標から、次の四つの章を構成しています。

■第一章

「生涯充実して暮らせる

都市を創る」

■第二章

「自然・文化・人を

活かした郷を創る」

■第三章

「人・物・情報を

高度につなげる」

■第四章

「共に担うまちづくり

の仕組みを築く」

それぞれの章で、南丹市全体や各地域における現状を基に、それらの課題解決のためにどのような視点で、どのような施策や事業の展開をしていくかをまとめています。

将来像を達成するために…

基本計画に示す 主な施策の方針

第1章 生涯充実して 暮らしを創る都市を創る

- ① 安心して子育てできるまちをめざす
- ② 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる
- ③ 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる
- ④ 医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する
- ⑤ ふるさとで働ける場をふやす



▲南丹市子育てすこやかセンター

未来を担う子どもたちの健全な成長のため、地域子育て支援センターを増設し、子育て環境の整備・充実を図るとともに、親の孤立を防ぎ地域ぐるみで子育てを支援する仕組みづくりを行います。学校教育においては、確かな

な学力の育成や心の教育を充実するとともに、障がいのある児童生徒を支援する体制の充実、また教育施設や設備の計画的な整備を図ります。暮らしを支える医療、福祉の施策として、健康づくり活動や介護予防の支援、地域医療体制の確保充実、高齢者や障がいのある人の自立と社会参加の促進による生きがいの



▲京都新光悦村進出第1号となったマルホ発條工業

持てるまちづくりなどを推進します。

また、充実して暮らせるまちづくりのため、魅力ある雇用の場の確保は欠かせません。京都新光悦村への企業誘致を促進するとともにその波及効果の拡大、産・学・官（企業・学校・行政）の連携を深め市内外の学校を卒業した人などの新たな起業への支援、そして地元農林業や商工業が本市の働く場として一層



▲畑郷ふれあい農園「植付祭」

これらのルールづくりとともに、景観を保全する取り組みや、環境に優しい暮らしを

拡大するような支援と斡旋の仕組みづくりを進めていきます。

第2章 自然・文化・人を 活かした郷を創る

- ① 豊かな緑と清流を守る
- ② 資源が循環するまちをつくる
- ③ 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる
- ④ ひとを温かく迎える
- ⑤ 伝統文化を継承する
- ⑥ 暮らしの安全と安心を守る

本市の貴重な財産である森



▲るり溪「鳴瀑」

林、河川、農村景観、町並みなどの地域資源を保全し、森、里、街がきらめく美しい景観を市民の誇りとして次世代に継承するために、計画的な取り組みやルールづくりが必要で、生活環境、自然環境、景観の維持・保全を図る

「南丹市美しいまちづくり条例」を発展させ、環境保全の指針として「環境基本計画」を策定します。また景観法に基づき「景観計画」の策定で良好な景観形成の指針を示します。

考え実践する市民やグループを育成し、ゴミの減量化など、市民意識の高揚を図ります。

- ④ 誰もが安心な地域交通システムをつくる
- ⑤ 双方方向の情報通信基盤をつくる
- ⑥ にぎわいの市街地をつくる

農林業の振興に関しては、認定農業者や新規就農者、林業従事者の育成支援、安全安心な農産物の生産、地元産材の活用を図るなど、南丹市ならではの地産地消の推進と支援により、さまざまな「南丹ブランド」を確立。「ほんまもん」をつくる取り組みを推進し、農産産出額の増加を図ります。

市内を結び、さらに近郊の都市圏とのアクセスを強化する道路網整備は、暮らしの利便性や地域発展の重要な柱です。安全で快適な道づくりのため、国・府道改修や機能強化への働きかけを一層強めるとともに、地域実情に応じた市道・農道・広域林道などの計画的な整備を行います。

さらに誰もが安心して利用できる公共交通、JR山陰線の複線化と接続ダイヤの利便

第3章 人物・情報を高度につなげる

- ① 高速移動の網を広げる
- ② 鉄道をさらに便利にする
- ③ 安全で快適な主要道路でつなぐ



▲八木町地内でのJR複線化工事



▲供用を開始した都市計画道路（園部町美園町）

性向上に努め、利用者数の増加を図ります。

また、情報基盤整備の分野では、現在、整備中の光ファイバーネットワーク網を基盤として、CATVやインターネットサービスを提供し、併せて南丹市情報センターの自主制作番組を充実することで、CATVの利用者を増やし、身近な情報の提供や住民相互の交流を図ります。

にぎわいのまちづくり施策としては、都市計画の推進と魅力ある商業集積による本市の中心市街地の整備促進を図るとともに、そのほかの地域においては地域ごとの住民の暮らしに必要な商業などの育

成支援を進め、地域拠点整備を図り、人が集い、行き交う街づくりを進めます。

第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く

- ① 共に生きるまちづくりを進める
- ② 住民自治の地域づくりを進める
- ③ 多様な担い手のパートナーシップを育てる
- ④ 大学等と連携し、ともにまちをつくる
- ⑤ 未来を担う人づくりを進める
- ⑥ 行財政改革を推進する



▲明治鍼灸大学による公開講座

全ての市民一人ひとりの人権が尊重される地域づくりや、男女共同参画の社会づくりを進めるため、市民相談体制の充実を図るとともに、学ぶ活動に参加する市民を増やし、啓発や支援の取り組みを進めます。

また、地域のことを地域が決めて実行する地域自治組織の設立を目指して、市民とともに検討を進めていきます。

市民との協働の考えを基本にした「住民参加条例」の制定など、協働と市民参画のための仕組みづくりを探ります。そして各種団体やボランティア、NPOなどの協働を進める公共事業の多様な手



▲大堰川河川敷の清掃をする「ECOレンジャーやぎっ子隊」

基本計画に示した 『ともにめざす目標指標』

—基本計画の5年の期間(～平成24年度)に達成する目標—

まちづくりのテーマ

みんなの笑顔 元気を合わせ
誇りときぎすなで未来を創る

将来の南丹市のイメージ

森・里・街がきらめく
ふるさと南丹市

第1章

生涯充実して暮らせる都市を創る

- 地域子育て支援センターの設置4箇所 【現況；1箇所】
- 文化サークル数160団体 【現況；154団体】
- 総合型地域スポーツクラブ数4クラブ 【現況；2クラブ】
- 地域福祉ボランティア活動の参加者1,600人 【現況；1,427人】
- 市内で働く従業者数12,000人 【現況；11,504人】
※国勢調査に基づく

第2章

自然・文化・人を活かした郷を創る

- 河川の水質調査による数値改善。※桂川上流、園部川、由良川上流、棚野川の各指定地点の計測による。
- 景観保全のためのルールの制定
- 1人あたりのごみの排出量400g/日 【現況；537g/日】
- 農業産出額55億万円 【現況；51億6千万円】
- 観光入込客の年間数200万人 【現況；154万6千人】
- 防災行政無線を全世帯に普及 【現況；15.8% (2,144世帯)】

第3章

人・物・情報を高度につなげる

- 市内のJR全駅乗降客数18,000人/日 【現況；15,581人/日】
- 平成24年度までに完了予定の市道改修をすべて完了 【7路線】
- 市営バス利用者255,000人/年 【現況；254,944人/年】
- ケーブルテレビへの接続世帯数12,500世帯以上 【現況；8,755世帯】
- 市内年間商品販売額280億万円 【現況；279億5千万円】

第4章

共に担うまちづくりの仕組みを築く

- 100人以上の企業の50%以上に人権相談窓口の設置
- 女性の総合的相談窓口の開設
- 地域自治組織の構築
- 「住民参加条例(仮称)」の制定
- 大学等との連携支援組織の設置
- 人材登録制度(仮称・南丹達人バンク)設置
- 行政評価システムの導入



▲松村賢治審議会委員長(中央)から市長への答申

市民と行政が共に築く「協働」のまちづくり

一層厳しくなる社会情勢の中で、住民が満足して暮らせる

法の検討や、地域の伝統行事・文化の熟練者や継承者の人材登録制度の設置など、さまざまなまちづくりに市民が活躍できる仕組みを築きま

また、市内には多彩で特色ある大学などの教育機関が多く存在しています。これらの貴重な「知」の財産を地域と結び、全国にも誇れる「教育のまち南丹」を育むため、産・学・官の連携を進め、協働を推進します。

るまちづくりを実現するため、健全な行財政運営と行政改革を着実に遂行することが、行政の責務です。そして一人ひとりの市民がいかに主体的に取り組み、地域の力を高められるかが「協働」のまちづくりの重要なポイントとなっています。

この南丹市総合振興計画は、全ての市民の皆さんにとってのまちづくりの指針となります。

さまざまな取り組みを通じて、郷土の歴史、伝統、文化を守り、ふるさと南丹市に誇りを持って生きようとする人々の心が一層高まるように、行政と市民のパートナーシップによるまちづくりを進めていきたいと願っています。

※南丹市総合振興計画は、今後、概要版を作成し、市民の皆さんにお届けするほか、市ホームページに掲載する予定です。

お問い合わせ先

市役所企画推進課

☎〇七七一一六八—〇〇三三

南丹市立殿田小学校 新校舎が完成しました

昨年八月から改築工事を進めてきた南丹市立殿田小学校（日吉町殿田）の校舎が完成しました。児童たちも、二学期から真新しい校舎を使い始め、新たな殿田小学校の歴史がスタートしました。

殿田小学校の改築事業は、二学期の始業式となった九月三日に、新校舎の使い初め式が行われ、下村慶校長、牧野修教育長、児童会代表によるテープカットの後、六年生から順番に校舎に入り、真新しい教室で二学期の授業がスタートしました。

昨年八月から進めた改築工事は、今年三月に体育館が完成。七月には校舎が完成し、二学期から新校舎を使用することになりました。

校舎は、基礎から壁の立上げまでを鉄筋コンクリート造として耐震、耐久性を確保しています。また、屋根組みおよび内装には木材を使用し、



▲使い初めを記念して行われたテープカット

温かみのある建物になっています。天井から自然光が入り、天井から自然光が取り入れられるなど、伸び伸びと学べる工夫がされています。体育館は、広さが九八〇平方メートルです。児童保育施設も併設しており、放課後児童クラブを行います。

今後、水泳プール建設、グラウンド整備のほか、日吉町管内小学校の給食を賄う共同調理場の建設を予定しています。平成二十一年三月には全ての施設が完成する予定となっています。

**新しい校舎で
がんばります！**

「めずらしい教室」

吉田 茉由さん（五年）

授業をしていると必ず上を見ってしまう。そこには青空が広がっている。放課後、上を見ていると飛行機が飛んでいった。私はすごくてみんなとはしゃいでいた。この教室はいいことがいっぱい。この教室では勉強がはかどりそう。この教室をつくってくれた人に感謝したい。

「新校舎ができて」

小林 千紘さん（六年）

今年の二学期から新校舎になりました。新校舎は、たくさんのお木が使っており、いろいろな工夫もあっていいと思います。

新しい校舎ということですが、そうじもみんな頑張っています。この校舎で過ごすのは残り少ないけど、新校舎にふさわしい、しっかりした六年生になりたいです。



「新校舎ではぐくみに託すこと」



殿田小学校
校長 下村 虔さん

新しい校舎の玄関をくぐると、そこには木のさわやかな香りが漂い、優しい温もりで包んでくれるような感じがします。この学舎の中で、「和合・自主・努力」の精神のもと、「生き方をゆさぶる」特色あるはぐくみを推進していきたいと考えています。

その実現を目指し、明日も来たる学校、心がふれあう学校、確かな学力が身に付く学校を構築して、自然を生かし地域と一体となった教育活動を推し進めてまいります。



5・6年生教室

八角形教室として整備しました。グループ学習、発表会、円卓形式のクラス会など、多様な授業形態に効果を発揮します。

多目的スペース

各学年教室横に一体的に整備しました。体験的な学習、グループ学習、学年を超えた合同の一斉学習・集会が可能です。



コンピュータールーム

児童1人に対して1台を整備しました。隣り合う図書室と一体的に利用できます。情報収集、発表資料の作成など、さまざまなメディアを有効利用できる空間として整備しました。

園部八木線 時刻表

園部駅西口 ~ 室橋 ~ 南丹病院(往路)

南丹病院 ~ 室橋 ~ 園部駅西口(復路)

停留所名	第1便	第2便	第3便
園部駅西口	8:05	13:22	20:45
吉富	8:10	13:27	20:50
美里	8:12	13:29	20:52
新庄橋	8:14	13:31	20:54
室橋	8:16	13:33	20:56
諸畑	8:18	13:35	20:58
日置	8:20	13:37	21:00
氷室の郷	8:22	13:39	21:02
野条	8:24	13:41	21:04
池上	8:25	13:42	21:05
北廣瀬	8:26	13:43	21:06
ふないの里口	8:27	13:44	21:07
勤労者福祉会館前	8:28	13:45	21:08
八木大堰橋	8:29	13:46	21:09
国道八木	8:31	13:48	↓
南丹病院	8:31	13:48	↓
八木駅前	—	—	21:13

停留所名	第1便	第2便	第3便
八木駅前	6:06	—	—
南丹病院	↓	11:03	15:08
国道八木	↓	11:03	15:08
八木大堰橋	6:09	11:06	15:11
勤労者福祉会館前	6:10	11:07	15:12
ふないの里口	6:11	11:08	15:13
北廣瀬	6:12	11:09	15:14
池上	6:13	11:10	15:15
野条	6:14	11:11	15:16
氷室の郷	6:16	11:13	15:18
日置	6:18	11:15	15:20
諸畑	6:20	11:17	15:22
室橋	6:22	11:19	15:24
新庄橋	6:24	11:21	15:26
美里	6:26	11:23	15:28
吉富	6:28	11:25	15:30
園部駅西口	6:33	11:30	15:35



▲新路線の出発を記念して行ったテープカット

南丹市地域公共交通会議で議論が行われました。その後、近畿運輸局の運送認可を受け、運行が開始されることになりました。

運行は京阪京都交通への委託としており、運賃はJR園部駅西口から公立南丹病院までが二百七十円です。また、高齢者などの交通弱者に配慮して、長い距離を歩かなくてもいいように、通院時間帯は、公立南丹病院に直接、乗り入れを行います。

なおこの路線は、来年九月

お問い合わせ先
市役所企画推進課
☎〇七七一一六八—〇〇三三

三十日までの試験運行としており、利用状況などをみたくて、それ以後の運行の継続について検討することになっていきます。

試験運行終了後もこの路線を継続させるため、皆さんの積極的なバスのご利用をお願いします。



▲公立南丹病院を出発し、JR園部駅西口へ向かうバス

美山町での山村留学が10周年を迎えました

南丹市美山山村留学の歴史を振り返る

平成9年に旧美山町で始まった山村留学事業が今年で10周年を迎えました。この10周年を振り返り、山村留学事業の歴史と歩みを紹介します。

美山での山村留学の歴史

南丹市美山町の知井地区で、山村留学事業を開始して今年で10周年を迎えました。

知井地区での山村留学の始まりは、平成九年に行われた旧美山町立知井小学校の改築がきっかけでした。地域の中で「学校は地域のシンボルとなるもの。校舎新築を期に、地域が元気を取り戻し、将来の知井づくりにつながる取り組みが必要ではないか」との声があがり、地区住民らで校舎建築委員会を発足させ話し合いが行われました。過疎化が進む知井地区では少子化が深刻な問題となってい



▲10年を記念して作られた留学生らの人形



▲都会では味わえない豊かな自然の中で学びます



▲5人の第1期生で山村留学は始まりました

ました。特に小学校では、別年度の児童が同じ教室で学ぶ複式学級化への移行が迫られていました。

そのため、地域のシンボルとなる小学校に空き教室を作らないように教育を活性化すること、また、都市との交流の促進を目指して、知井小学校の新校舎完成と同時に山村留学が始まりました。

山村留学センターでの生活

当初は、校区の一般家庭に寄宿する「里親方式」で六人の児童を迎えて試行した山村留学は、二年目からは学校から約二キロ離れた空き家に全員が寄宿する

山村留学とは：都市部の小学生や中学生が長期間にわたって親元を離れ、自然豊かな農山村の留学センターや里親家庭で生活しながら現地の学校で学ぶことです。



▲近くにあるかやぶきの里で集合写真（第8期生）

「センター方式」となり、新潟県、香川県などから児童を迎えました。そして平成十二年三月にはロジ風で木造平屋建ての現在の寄宿舎山村留学センター「四季の里」が完成しました。

留学生は小学生を対象に一年から二年の滞在で、平成十年成五人、平成十一年度五人、平成十二年度八人、平成十三年度九人、平成十四年度九人、平成十五年度から平成十八年度まで

各八人、平成十九年度十人を受け入れていきます。

子どもたちは木曜日を除く月曜日から日曜日を山村留学センターで生活し、センターから知井小学校へ歩いて通学しています。

山村留学センターでの子どもたちの世話は、生活の指導をする指導員と、食事や洗濯、掃除などを行いセンターでの親代わりとなる寮母がいます。

木曜日は学校が終わると、地元で里親になっていただいている方とところでホームステイをします。土・日曜日はスポーツ少年団活動、地元のお祭りや行事に参加したり、農園で野菜作りをします。夏には近くの川で遊

び、冬には雪が積もればソリで遊ぶなど、子どもたちは自然に囲まれた環境の中で生活をしていきます。

現在、山村留学は親元を離れた共同生活や、都市部ではできない豊かな自然体験が、子ども達の頭脳のみならず豊かな感性を培うものとして注目されています。また、留学児童を通じて都市住民との交流による地域の活性化も期待されています。

**十周年を記念した
式典を開催**

山村留学十周年を記念し、九月十六日に知井小学校で記念式典を行いました。

式典には三十七人の卒業生



▲雪遊びを楽しむ (第9期生)



▲当時の懐かしい写真などを展示



▲式典には37人の卒業生が集まりました

とその親が集まり、山村留学センターで生活を共にした仲間との久しぶりの再会となりました。また、里親として子どもたちを支えた地域の人たちも参加し、当時の懐かしい思い出や、現在の学校生活などの話で盛り上がりました。

これからも、美山山村留学は、豊かな自然の中で、さまざまな体験を通じ、異なる環境で育つ子どもが、お互いの感覚や考え方を学びあう場として、事業を継続します。

お問い合わせ先

市教育委員会学校教育課

☎〇七七二—六八一〇〇五六

山村留学センターの思い出

山村留学センターの卒業生たち

足立 雅史さん (第一期生)

山村留学の印象は、「楽しかった」ということ。毎日が楽しくてしよがなかつたように思う。僕の人生の中で、今のところ一番といってもいいくらい楽しかった。

和田 七永さん (第六期生)

最初は、慣れない土地での共同生活など不安がいっぱいでした。でも、美山町の自然とまちな人たちが温かく迎えてくれたことが、不安を楽しみに変えてくれました。

竹下 絢菜さん (第三期生)

私にとって、一緒に生活していたみんなは兄弟のようで、寮母さんも本当のお母さんのようでした。里親さんも私を本当の子どものように扱ってくれて、すごく幸せでした。

川端 諒平さん (第七期生)

美山に来て、いろんな人の生活を見た。いろんな人の生き様を見た。いろんな人や自然が、僕の考えを変えていったのだと、今、改めて感じている。

センターの指導員・寮母

「四季の里」指導員 田中律子さん

どの年も楽しい思い出ばかりでした。子どもたちは山村留学で自分の持ち味を発揮しながら、大きくなってくれたことと思います。

「四季の里」寮母 澤田千代野さん

無我夢中で子どもたちと暮らして十年が過ぎました。多くの子どもさんをお預かりし、多くの人と知り合うことができたことをうれしく思います。

地域の里親

青山 広晴さん (第八期里親)

子どもたちは、学校や自然の中で、いろいろなことを経験したと思います。その中で、私たちのこともいい思い出となってくれたらうれしいです。

卒業生の親

森山 卓郎さん

二年間の留学の予定が、子どもがもう一年、美山で生活したいといい、二年間を過ごさせてもらいました。この二年は、すばらしい少年時代だと思っています。



バイオマス利活用の可能性を探る —第1回南丹市バイオマス利活用推進委員会—



▲委員会ではバイオマスエネルギーの利活用の可能性について話し合われました

九月四日、バイオマスエネルギー活用の方角性や事業化の可能性を探る「南丹市バイオマス利活用推進委員会」を、南丹市国際交流会館で開催し、十四人の委員が出席しました。

バイオマスとは、石油などの化石燃料を除く、間伐材やおがくず、家畜のふん尿など生物由来の資源のことをいいます。地球温暖化に影響する二酸化炭素の排出量削減や、石油に代わるエネルギー資源としてバイオマスエネルギーの利活用は、環境保全だけでなく、農林業の活性化にもつながり、今後ますます重要

性が高まると期待されています。

南丹市では、家畜ふん尿などを活用したメタン発酵施設や、事業系生ゴミを利用した民間施設のバイオガスプラントによる発電などがすでに稼働しています。今後は、生ゴミや下水道汚泥、林業廃棄物などのバイオマスの利用を検討しています。

委員会は、技術的な観点からバイオマスの利活用についての方角性を探るのが狙いで、大学教授や林業、廃棄物処理関係者、市職員らで構成しています。

この委員会は本年度、市が資源エネルギー庁の「バイオマス等未活用エネルギー事業調査事業」のバイオマスタウン枠の指定を受けたことから発足したもので、京都府内では初の指定となりました。

第一回委員会では、京都大学大学院工学研究科の津野洋教授を委員長に選んだあと、討議に移り、バイオマス原料としての間伐材利用などの意見が交わされました。

今後、委員会において検討が進められ、来年二月に報告書がまとめられます。

文覚ふれあい公園に 新しいテントを整備

—文覚ふれあい公園

キャンプ場—

八木町室橋の文覚ふれあい公園に、キャンプ用テント十張を、新たに整備しました。同公園は、NPO法人八木町スポーツ協会に管理を委託しています。

キャンプ場は、静かで落ち着いた自然環境にあり、京阪神からも多くの人が訪れます。今回、新たに整備したテントは、八木町に工場のある「ジヤトコ株式会社」より、寄贈していただいたもので、利用者への貸し出し用として活用します。



▲文覚ふれあい公園に寄贈されたテント

一〇七歳を迎えられ お祝いの品を贈呈

—市内最長寿者の
お宅を訪問—



▲市内最長寿者の井尻好二さん(中央)

九月二十一日、市内最長寿者の井尻好二さん(日吉町保野田)宅を、佐々木市長が訪問し、お祝いの品を贈呈しました。京都府からは百歳以上のお祝いとして、南丹広域振興局井上副局長も同席されました。

井尻さんは、明治三十二年十月五日生まれで府内の長寿者では八番目になられます。

お祝いは市長から、さりを織りのベストと花束を、府知事から祝状とさをり織りのクッションが贈られ、市長が「来年もお会いするのを楽しみにしています」と声をかけました。

平成20年4月から 後期高齢者制度 が始まります

後期高齢者医療制度が来年四月から始まります。現在の老人保健制度に変わる新しい医療制度として、医療の必要性が高くなる後期高齢者（七十五歳以上の人）などが対象です。

後期高齢者医療制度が始まります

平成二十年四月から、現行の老人保健制度に変わり「後期高齢者医療制度」が始まります。

現在、老人保健制度による医療を受けられている方は、国民健康保険や被用者保険（政府管掌健康保険、健康保険組合、共済組合、船員保険など）から移行し、「後期高齢者医療広域連合」が行う「後期高齢者医療制度」の被保険者となります。

京都府では、府内の全市町村が加入する「京都府後期高齢者医療広域連合」が「後期高齢者医療制度」の運営を行います。保険料の納入や申請などの窓口業務は、市町村が行います。

【後期高齢者医療制度の主な概要】

●後期高齢者医療制度の対象者：七十五歳以上の全ての方と、一定の障がいがあり、後期高齢者医療広域連合の認定を受けた六十五歳以上、七十五歳未

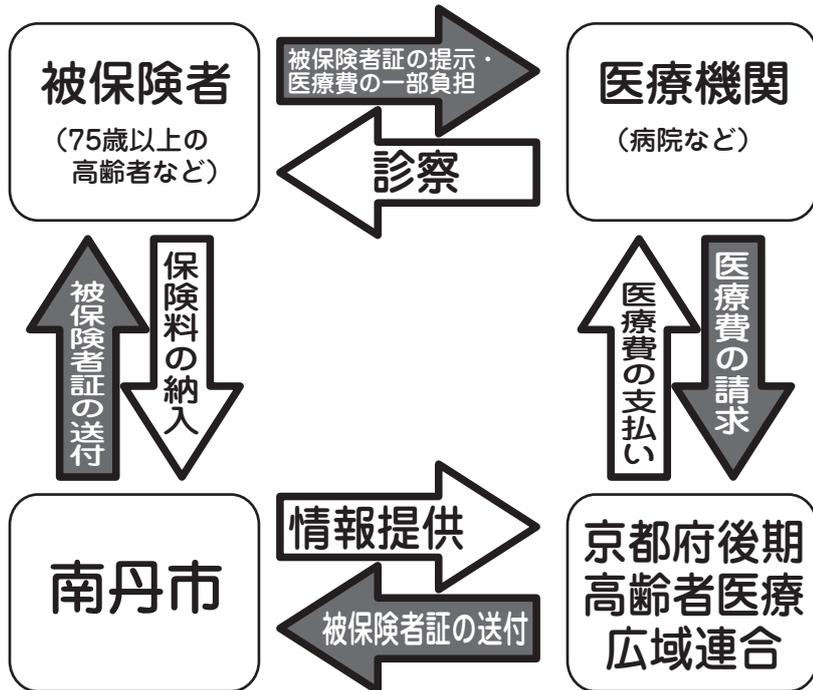
満の方。

●医療費の自己負担額について：老人保健制度と同様に、一般の方は二割負担、現役並み所得者は三割負担となります。

●保険料について：保険料は、全ての被保険者の方に負担していただくこととなります。保険料額は、所得割額（被保険者の所得に応じてかかる金額）と均等割額（被保険者全員に均にかかる金額）の合計額となり、一人ひとりに賦課されます。所得の低い方や、これまで被用者保険の被扶養者として保険料の負担がなかった方については保険料の軽減措置があります。保険料率に関することは、京都府後期高齢者医療広域連合議会において十一月頃に決定されます。

●保険料の納め方：保険料は原則として年金からの天引きになります（特別徴収）。ただし、年金の年額が十八万円未満の方や、介護保険料と合わせた保険料額が年金額の二分の一を超え方などは天引きの対象になりません。特別徴収されない方に

■制度のしくみ■



※現在、高齢者の医療制度のあ

●医療の受給について：医療機関の窓口で、後期高齢者医療の保険証を提示してください。

●給付について：主なものとして、入院時食事療養費や、高額療養費などの支給があり、基本的に現行の老人保健制度と同様です。

り方について、国で審議されている状況です。今後、制度の内容の一部が変更されることもありま

具体的な保険料や、詳しい内容などについては、決まり次第、お知らせします。

お問い合わせ先
市役所国保医療課
☎〇七七一一六八—〇〇一一

いきいき南丹

-19-

お元気ですか？
保健師です。



腰痛を解消して活動的な生活を!

～姿勢と適度な運動で、腰痛を予防しよう～

腰痛は、たいていの人が、一生のうちで二度は経験するといわれるほど、一般的な体の症状です。

腰痛の原因はさまざまですが、高齢になると脊椎や椎間板、筋肉などの老化によって起こる「変形性腰椎症」が多くなります。五十歳以上の男性の八割、女性でも七割近くの人が、この疾患を抱えています。

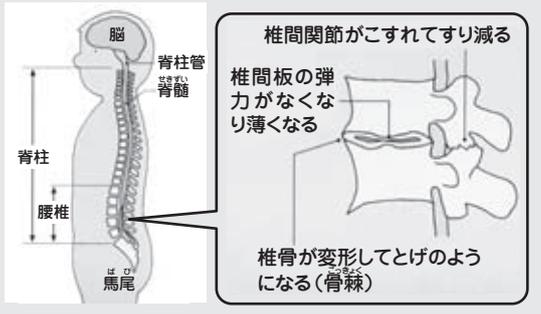
「変形性腰椎症」は、安静にしすぎて筋力が低下すると、症状がさらに悪化するので、必ず医師の指示を受けて、無理のない範囲で活動することが大切です。

変形性腰椎症の原因は？

脊椎は椎骨という小さな骨が重なってできており、椎骨と椎骨の間にはクッションのような働きをする椎間板があります。「変形性腰椎症」は、加齢により椎間板が薄くなったり、椎間関節

腰痛の原因

(図1)



がすり減ったり、椎骨が変形して「とげ」のようになることで、神経が刺激されるなどして腰に痛みを生じる病気です。(図1)

日常の姿勢や動作を見直して腰痛を予防しよう

腰痛の大きな原因のひとつが「姿勢」です。背骨は本来、緩やかなS字カーブを描いてバランスをとるのが正しい状態。おなかと腰が前に突き出る「反り返り」や、首が前に出て背中が丸まる「猫背」などの姿勢は、腰椎に大きな負担がかかります。また「座りっぱなし」や「立ちっぱなし」など長時間、同じ姿勢をとり続けることも、骨や筋肉の特

痛みを解消する腰の健康体操

①両足を肩幅くらいに開いて立ち、息を吐きながら両手を伸ばして上半身をゆっくりと前屈。次に息を吸いながら上半身をゆっくりと起こし、両手を後ろにして体を反らせる。10回繰り返す。



②床に仰向けに寝てひざを立てる。足の裏と肩を床につけた状態で、腰を上を持ち上げるように浮かせる。3秒間保ってからゆっくり腰を下ろす。5回繰り返す。



③床に手とひざをついた姿勢になる。背中を反らすようにして、お尻を足のほうにゆっくりと下ろす。3秒間保ってから、ゆっくりと元の姿勢に戻す。5回繰り返す。



④床にうつぶせになり、両腕で体を支えながら、上半身をゆっくりと起こす。起こした状態で3秒保ってからゆっくりともとに戻す。5回繰り返す。



定の部分だけに負担がかかるため腰痛の原因となります。腰痛は運動不足とも大きく関係します。さらに「肥満」になると、腰椎の椎間板に大きな負担がかかり、椎間板が損傷しやすくなります。

腰痛を予防するためには、日常の姿勢や動作、生活習慣を全体的に見直すことが大切です。また、背骨を支える腹筋と背筋を鍛え、柔軟性を高めるために、腰の健康体操もお勧めです。

ぶらり

なんたん 19

たまいわ ～玉岩地蔵堂～

海老坂の伝説、敬う思いも重き地蔵尊

日吉町四ツ谷の海老坂は、かつて京の都と若狭を結び、サバなどの海産物が運ばれた「若狭街道」の峠。杉木立に囲まれた坂道を上ると、高々と積み上げられた石垣の上に玉岩地蔵堂の庫裡（くり）が見えてきます。

ここに祭られている玉岩地蔵尊は、その昔、若狭の八百比丘尼が地蔵尊を背負って諸国行脚の末、この地で重く動かなくなつたため安置したとされています。大岩をくりぬいた中に安置されており、江戸時代にこの大岩を取り囲むように現在の地蔵堂を建立。二面の格天井や外装に



▲ひっそりと安置される玉岩地蔵尊



▲小さいお堂ながら見事な装飾が施されている地蔵堂

は、見事な意匠の装飾が施されています。

本堂に隣接する庫裡は木造の二階建てで、寄席を思わせるような棧敷縁（さしき）があります。秋の彼岸の法要などには、中庭の舞台で芸能が催され、この棧敷縁から見物できます。これら地蔵尊、本堂、庫裡は、市指定の文化財です。

不老不死伝説の八百比丘尼にあやかり、「延命子安地蔵」としてお参りされる方も多く、春秋の彼岸や地蔵盆など、年五回の法要には、比丘尼ゆかりの若狭地方をはじめ、多くの方々が訪れます。

ちり案内人



宗教法人玉岩地蔵堂
代表役員 加地 清次郎 さん

玉岩地蔵さんを案内していただいたのは、宗教法人玉岩地蔵堂の代表役員、加地清次郎さん。ぜひ、ということで本堂の裏側に回ると、なんと地蔵尊が安置されている大岩の一部が、板壁の間から山すそに大きくせり出していました。そこかしこに、建立当時の人々の地蔵尊を敬う思いの重さが伝わってくる丁寧な造りでした。秋彼岸の法要でも300人ものお参りがあったそうですが、一方では、文化財を狙った盗難など憂慮する問題もあるとのこと。地域の貴重な文化財を保護するため、各集落に役員を置いて次代へと受け継いでいけます。



海老坂の地蔵さま

※「京都の伝説」より抜粋

若狭の小浜に家は貧しいが、心優しく大変美しい娘がいた。ある日、一人のお坊さんが疲れた様子で歩いていた。気の毒に思った娘は、家にお泊めした。家は壁も落ち、屋根も破れ、その上病人もいたが、娘は心を込めてもてなした。

翌朝、娘が起こしに行くと、お坊さんの姿はなく、そこには「あなたの優しい心が御仏に通じ、家も立ち直り、病氣も治ります」と書かれた一通の手紙とお地蔵さまが。娘はお礼に、尼となつてお地蔵さまを背負い、全国を人助けして歩いた。

長い年月がたち、海老坂峠でひと休みしていると、夢にいつかのお坊さんが現れ、「務めを終え、故郷に帰りなさい」と告げた。目が覚めてお地蔵さまを背負おうとしたが重くて動かない。そこでお告げのとおりそこにお堂を建て、お地蔵さまをお祭りして故郷の若狭へと帰った。娘はその後、八百歳まで長生きし「八百比丘尼」と呼ばれた。

各図書館の開館時間

中央図書館：9時～17時

 八木図書室：(平日)10時～18時・(日曜)10時～17時

 日吉図書室：(平日) 9時～18時

 (土・日・祝) 9時～17時

 美山図書室：9時～17時・(金曜のみ)11時～18時

図書館へようこそ!



イメージキャラクター“なびっと” No.4

すてきな秋の旅を 見つけてみませんか

秋といえば「読書の秋」です。図書館では、「読書の秋」にちなんだ企画で、皆さんのお越しをお待ちしています。

日吉図書室恒例の企画展、十月のテーマは「線路は続くよ」でした。日吉図書室の窓から見える列車に、いつも子どもたちは大喜び! ついつい車で移動することが多い方も、列車には、なにやらわくわくさせられるものがありますね。



▲日吉図書室の企画展「線路は続くよ」

一口に列車に関する本と言っても、実際に旅を企画する時に参考になる本はもちろん、乗ってみたい気持ちにさせられる、最新の列車の旅を紹介したものや、昔ながらのローカル線の旅を紹介する本のほか、なかなか出かけられないとおっしゃる方にも、見ているだけですっかり旅気分を味わえる、車窓の風景を描いた

本や、外国の列車を紹介している本など、いろいろなものがあります。企画展で紹介したことをきっかけに、引き続き利用いただく方も多くあります。南丹市の各図書館・室にも、そ

なびっとの 4こまマンガ —わが家の日常—



作：田村 香さん
優衣ちゃん (親子)

※この作品は、今年の8月に募集した「なびっと4こまマンガ」の中から掲載しています。

読書週間が
始まります!
今年も十月二十七日から読書週間が始まります。毎年、社団法人・読書推進運動協議会で

あなた
は、誰と、
どんな本
を読みた
いですか?



自信喪失サラリーマンが、口の悪い関西弁のゾウ、ガネーシャと出会い、半信半疑ながら言われるまま行動することに。巻末のガネーシャ名言集には笑って学べる成功のヒントが!



「夢をかなえるゾウ」
著：水野敬也
発行：飛鳥新社

ガンで入院した夫と妻をつないだのは、不器用に操作する携帯電話だった。病気に決してあきらめない、明るく、温かい熟年夫婦の闘病・看病小説。

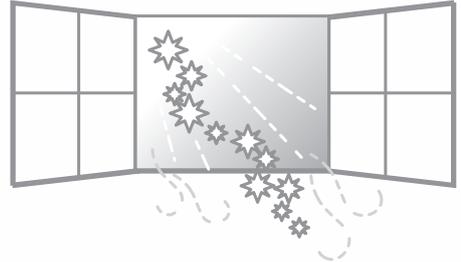


「携帯」
著：荒井通子
発行：武田出版

新刊紹介

優先席と人権の文化

人権の窓を開けて、優しい陽の光と、さわやかな風を感じてください



優先席は、困っている人に目を向け、人の心を育てる一つの手段で、思いやりや人を大切にする心がみんなに育ったとき不要になるものです。例えば、朝、起きて、顔を洗って、歯磨きをしないと気持ちが悪いです。お正月にはおもち

日本では優先席が設置してありますが、欧米ではそのような席は無いそうです。老人や妊婦さんなど、必要な人に席を譲るのがあたりまえ、という習慣があるからです。

「三つ子の魂、百まで」ということわざがありますが、子どもが幼い頃から、心が真っ白の時から、親が、大人が人権の大切さを、機に応じ、身をもって示し、教えてこそ、生き方として身につくものです。人権文化の継承と発展をゆだねられる子どもたちを、共に育てたいと思いま

新 聞の投書欄で「電車の優先席を、不必要な人が独占しているのを見て、不快に感じた」という投書を時折、見かけることがあります。若者が「とよく言われますが、若者に限らず、壮年・男・女を問わず、時には子どもも含めてそんな状況を見る必要があります。優先席がなんのためにあるのか知らない人はまずいけません。優先席でなくとも譲り合う姿を見ることがあります。優先席がないためにか知らぬ人、残念ながら投書のような事態が多いことも、また事実です。

を食べて、みんなで祝うなど、これらは生活に根付いている習慣であり、言い換えれば文化といえるでしょう。人権についても大切にするのが当たり前、優先席がなくなると譲り合うことが当たり前となったとき、人権尊重が文化として根付いたといえると思います。



(八木小学校 校長 松本 貞和)



工作 小寺 慧弥さん(3年)



習字 小寺 彩乃さん(5年)



絵画 山内 麻凜さん(1年)



愛鳥週間ポスター 山内 勇治さん(4年)



習字 村下 柚佳さん(6年)



絵画 片野 和さん(2年)

なんたんミュージアム 4
—南丹市立摩気小学校—

「第23回全京都車いす駅伝競走大会」が、京丹波町の府立丹波自然運動公園で開かれ、34チーム約190人が参加しました。大会は「学校・施設」部門で、南丹市園部町の「あしたーるほどほど」が1時間17分4秒で優勝。また、同日に開催された、重度障がいのある人などが出場する「第17回ミニ駅伝」の「学校・施設」部門では、南丹市八木町の「あじさい園」が、初出場した昨年に続き2連覇を果たしました。



▲昨年に続き連覇を果たした「あじさい園」チーム

(9/2 第二十三回全京都車いす駅伝競走大会)

「全京都車いす駅伝競走で南丹市内のチームが大健闘」

「園部町つつじの会が近畿農政局より表彰」

(男女共同参画優良事例表彰)



▲園部町つつじの会の片山弥生会長(右)と大町季美副会長(左)

近畿農政局が主催する男女共同参画優良事例表彰を、「園部町つつじの会」(片山弥生会長)が受賞されました。園部町つつじの会は、道の駅「京都新光悦村」で活動される女性グループです。農業生産や加工に取り組んでおられ、日替わり弁当やすし類など、地元産の米、農産物を利用し、安心・安全な農産物加工品を提供されています。伝統食講習会や出前料理教室なども行われ、地域の食文化の伝承に積極的に取り組んでおられます。

みんなのひろば

まちの話題を 紹介します

身近な話題を広報係(0771)68-0019へお寄せください。

「初秋の美山で、能・狂言の夕べを堪能」

(9/15 能楽の夕べ)



▲こっけいなやりとり思わず笑いが起こった狂言

美山能楽の夕べ実行委員会主催「第7回能楽の夕べ」が南丹市美山文化ホールで行われました。狂言「伯母ヶ酒」は、酒屋を営む伯母のところへやってきた甥が、伯母をだまして存分に酒を飲むが、最後にはうそがばれ、伯母に追い掛け回されるさまが、こっけいに演じられました。能「安達原」は、奥州安達原で山伏の一行が出会った老婆が、鬼となって山伏に襲い掛かり、最後には山伏の法力に敗れ、のろいの声を轟かせて消え去る様子が演じられ、訪れた428人の観客は、幻想的な能の世界を堪能しました。



▲幻想的な雰囲気の中で演じられた能



▲会を代表して表彰状を受けられた北川弘美さん(右)

環境美化活動や健康づくりなどの府民運動に積極的に取り組み、多大な実績・成果をあげている団体・個人が表彰される、新しい歴史に向かって走ろう「府民運動推進者表彰」で「美山歩こう会」(磯部操会長)が受賞されました。美山歩こう会は、かやぶきの里を歩く「ワンデーマーチ」などのウォーキングに取り組み、健康づくりだけでなく、その活動が地域の歴史や文化、自然の再認識につながるなど、安らぎと潤いのあるまちづくりに貢献されたことが評価されました。

(平成十九年度新しい歴史に向かって走ろう「府民運動推進者表彰」)

「美山歩こう会」に府民運動推進者表彰

京都府内各地に残る民謡の採録活動を行いながら、演奏活動を行っておられるアマチュア民謡合唱団「篝」による民謡コンサートが南丹市日吉町生涯学習センターで行われました。

地元の美山町佐々里地区に伝わる民謡「ヤッサコサイドッコイサッサイ」をはじめ、宇治市で唄われている「茶摘み唄」など、京都の各地に残る歴史や風土を唄った民謡13曲が披露され、訪れた約130人の観客は伸びやかな歌声に聞き入っていました。



▲民謡合唱団「篝」によるコンサート

「歴史や風土を唄った民謡コンサート」

(9/23 遊youひよし民謡コンサート)

「大黒天像を京都伝統工芸大学が修復」



▲京都伝統工芸大学に引き渡される大黒天像

京都市東山区にある清水寺の大黒天像が、京都伝統工芸大学の講師・学生らによって修復されることになりました。

室町時代に作られたとされる大黒天像は、高さ113センチの木像で「出世大黒」の名で親しまれています。長年、本堂でさい銭を浴び続けたために、表面の漆がはがれており、今回、信者の願いを受けて修復されることになりました。

仏像は清水寺森清範貫主らが見守る中、丁寧に梱包され、京都伝統工芸大学に引き渡されました。仏像は来年2月までの半年をかけて修復される予定です。

(9/4 清水寺「大黒天像」の引き渡し)

「ふるさとの清流に親しみ、美山川を守る」

子どものころから美山川(由良川上流域)での魚釣りに親んでもらおうと、美山漁業協同組合による「雑魚釣り教室」が知井、平屋小学校で行われました。教室では昔ながらの竹ざおを使って行われ、エサのミミズの付け方などを組合員が指導。ウグイなどの魚が次々と釣れました。

この取り組みは、地域の子どもたちに釣りに興味を持ってもらい、ふるさとの清流に親しみを感じてもらうことで、将来にわたって美山川の環境を守り、アユの友釣り愛好者の増加などによる地域の活性化につながることを期待されています。



▲学校近くの川で釣りをする知井小学校の児童

(9/10 美山川活性化プロジェクト)



■稲刈り

9月17日、南丹わくわくキッズ(南丹市教育委員会主催)に参加する小学生たちが、日吉町四ツ谷の田んぼで稲刈りをしました。地元の方に手伝ってもらいながら、たわわに実った稲穂を、一株一株、鎌で刈り取り、今では見かけることが少なくなった“稲木干し”をしました。

編集後記

今月号から「図書館へようこそ」のページに、イメージキャラクター「なびっと」の四コママンガを掲載することになりました。今年八月に市立図書館で行った募集企画で、いろいろとおもしろい作品が集まり、ぜひとも多くの人にってもらいたいということで始めました。皆さんの楽しい発想で「なびっと」が、どんなキャラクターになるか、とても楽しみです。

(S)



●日吉町
塩内 はやと 捷人くん (9ヵ月)

「かくれんぼかな？」

(ばあばより)



- 総人口：35,730人(-61)
(男：17,195人・女：18,535人)
(-30) (-31)
- 世帯数：13,589世帯(-9)

(平成19年10月1日現在)
()内は前月比

写真掲載の応募をお待ちしています。(応募数によっては順番待ちになることがあります) 詳しくは情報推進課広報広聴係まで



編集・発行:南丹市役所 企画管理部情報推進課
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL:0771-68-0019 FAX:0771-63-0653
URL:http://www.city.nantan.kyoto.jp
e-mail:jouhou-s@city.nantan.kyoto.jp



本紙は環境への配慮から、古紙100%の再生紙に、ソイインキ(大豆油)で印刷しています。